

令和7年度 第59回 中学生の「税についての作文」

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『税について』

町田市立町田第二中学校 3学年 赤間 由知

僕たちが暮らしている日本では、毎日のように「税金」が使われています。けれども、日常生活の中で「税」について意識することはあまりありません。僕は今回、この作文をきっかけに税について調べ、自分の生活との深い関わりを知って驚きました。

まず、税にはいくつかの種類があります。消費税や所得税、住民税など名前は聞いたことがあっても、それぞれがどのような目的で使われているのかは正直あまり知りませんでした。たとえば、買い物時にかかる消費税は、普段の生活にもっとも身近な税金の一つです。百円のを買うと消費税が十円かかり、百十円になります。この十円が実は僕たちの社会を支える大切なお金だということを知りました。

税金は、国や地方自治体が行う様々な活動のために使われています。学校の建設や教科書の無償配布、警察や消防の運営、病院の整備、高齢者の介護など、多くの公共サービスは税金によって支えられています。つまり、税金がなければ今僕たちが安心して生活できる社会は成り立たないということです。

僕は特に、学校教育と税金の関係に注目しました。僕たちが通っ

ている学校も、建物の建設費や先生方の給料、教科書や施設の整備など、様々なところで税金が使われています。もし税金がなかったら、授業料が高くなってしまったり、教材が自由に使えなかったりするかもしれません。そう考えると今、無料で教育を受けられていることも当たり前ではないのだと実感しました。

しかし税金には数多くの批判の声があります。実際、ニュースでは税金の使い方に関する問題が報道されることもあります。だからこそ、僕たち一人一人が税について関心を持ち、どう使われているのかを知ることが大切だと思います。将来、僕も働くことになれば税金を納める立場になります。そのときに、ただ「取られている」と感じず、「社会の一員として支えている」と思えるようになりたいです。

また、税について学ぶことは、「自分がどのような社会に住みたいのか」を考えることにもつながります。安心して暮らせる社会を実現するには、誰かがその土台を支える必要があります。税を通じて人々が社会を成り立たせていると考え、自分もその一員として何かできることがあるのではと感じます。

これから大人になっていく中で、税金についてもっと知り、自分で考え、必要があれば意見を持つことが大切だと思います。そして、未来の社会をよりよくするために、正しく税を使ってもらえるように、政治にも関心を持っていきたいです。